

土地改良区を元気にする情報紙！

水土里ネット パワーアップナビ



〔目次〕

- 地域と共に・・・荒川南部土地改良区
- 合併後を訪ねて・・・湯津上土地改良区
- 県からのお知らせ・・・栃木県ほ場整備連絡協議会20周年記念大会

2013/07

Vol. 3

TAKE FREE

地域と共に

このコーナーでは、地域の農業振興や地域社会との協働・交流活動に取り組んでいる土地改良区を紹介します。

取材先：水土里ネット荒川南部
(荒川南部土地改良区)
所在地：那須烏山市東原68-5
(那須烏山市農業会館内)
理事長：久郷 浩
設立：平成13年9月20日
地区面積：82ha
組合員数：148名

水土里ネット荒川南部では、東京都豊島区民との交流活動を実施しています。(表紙写真)

土地改良区のある那須烏山市が豊島区と防災協定を結んでいることをきっかけとして、今年度で8回目を迎えるそうです。

今回は、この取組を中心にお話を伺いました。

◆交流活動の内容を教えてください？

⇒毎年夏休みに1泊2日で**豊島区**の親子**50名**と**地元の親子**が活動に参加しています。

活動内容は、東京から各自、JR 烏山線大金駅に集合し、荒川で川遊びや魚釣り等を楽しんでもらい、その後、地区内の畑でトウモロコシを収穫し、夜はバーベキューをして温泉施設で1泊します。翌日は早朝にカブトムシ捕りをし、近所のお寺で座禅をします。昼食の後、カヌー体験をして夕方大金駅にて解散となります。(活動内容は若干の変更あり)



烏山線大金駅に集合し、記念撮影

◆土地改良区の関わりは？

⇒市からの委託事業なのですが、**運営は全て土地改良区の役員が総出で対応しています**。1年前から準備し、企画や活動内容は理事会で検討します。

役員の方々は、小さい頃から川遊びをしていたの

で、子どもの遊ばせ方がうまく、大変助かっています。

◆どのようにPR(募集)をする？

⇒豊島区は区の広報で募集しているようです。**毎回100名近くの応募**があるそうで、抽選により50名にしているようです。区民の方は交通費が自己負担であるにもかかわらず、毎回たくさんの応募があり、嬉しいことです。

地元は、市の広報や近隣の小学校にもPRしていますが、あまり参加がなく、今後、どのように参加を増やしていくかが課題です。



交流活動の様子

(上) トウモロコシの収穫

(左下) お寺での座禅

(右下) 荒川での魚釣り

◆交流活動の評判は？

⇒毎回、終了後にアンケートを実施しています。大変評判が良く、また参加したいとの意見もたくさんいただいています。毎回抽選になるので毎年の参加は厳しいですが、リピーターの方も多くいらっしゃいます。



交流活動の様子

(左) 河原でスイカ割り



(右) カヌー体験

◆苦勞した点はありますか？

⇒宿泊先の確保で苦勞しました。以前は公共施設

を利用していたのですが、閉館や震災で使用できなくなり、昨年から市内の温泉施設を利用しています。

また、時期が夏なので熱中症になる子どもがいたり、暑さ対策も大変です。

農業振興活動（ブロックローテーション）にも積極的に取り組んでいる



◆地域や土地改良区内のつながりを深めることはできましたか？

⇒活動をとおして、組合員が一体となって活動し、**土地改良区内組織の一体感が生まれました。**

また、若い世代に自分の経験等を伝えることができ、いい機会だったとの声もありました。

◆他に交流活動や農業振興活動はしていますか？

⇒10年ほど前から**ホタル観察会**を地区内の田んぼ公園でほぼ毎年、開催しています。

草刈り等の事前準備をし、当日は車の誘導や観察エリアまでの誘導を行っています。案内を各地区に回覧等でお知らせし、毎年たくさんの方に来ていただいています。

また、担い手育成のため地区内で**ブロックローテーション（集団転作）**を実施しています。各地区内を数ブロックに分け、毎年その中の数カ所を転作しています。大豆や飼料用稲、飼料用米を中心に作付けし、平成15年から毎年面積を増やしています。

合併後を訪ねて

「合併後の土地改良区運営ってどうなってるの？」そんな疑問をお持ちの方も多いはず。このコーナーでは、合併した後の土地改良区運営を紹介します。

取材先：水土里ネット湯津上
(湯津上土地改良区)

所在地：大田原市湯津上5-776
(湯津上農村環境改善センター内)

理事長：磯 紘一

設立：平成18年1月11日

地区面積：1,512ha

組合員数：1,078名

水土里ネット湯津上は、平成18年に8つの土地改良区が合併し設立されました。

現在は、総代70名、役員20名（理事17名、監事3名）、職員3名の体制で土地改良区の運営に取り組んでいます。

8土地改良区が1つの土地改良区として運営していく工夫について取材しました。

◆合併のきっかけはどのようなことからですか？

⇒国営事業の償還が完了し、事務費削減も見込め

ることから、旧村単位での合併が加速し、協議会設立となりました。

◆合併後の組合員の反応はありましたか？

⇒旧土地改良区単位で8地区の維持管理委員会があるのですが、**工事に係る効率的な情報の共有により、工事費の削減が図れました。**また、賦課金が軽減されたので、合併して良かったとの反応がありました。

◆合併後、運営上の変化はありましたか？

⇒**賦課徴収率が良くなりました。**また、役員数が全体として減少したので、運営費の削減もできました。

また、合併前はそれぞれが個別に事務所を構えており、賃借料等経費が発生していました。合併後は、大田原市(旧湯津上村)の公民館の一部を間借りしています。公民館は賃借料がかからず、光熱費のみ負担なので、**事務所経費が大幅に削減できました。**

◆徴収率が上がった要因は？

⇒はっきりとした理由は分かりませんが、**理事会等**



取材時も組合員さん
に来ており、親切丁寧
に相談していただきました

の会議で各地区のより良い方法を取り入れ、地区委員が徴収したり、滞納処分をアピールした等の結果かなと思います。

◆運営において工夫していることはありますか？

⇒職員3名が、各地区を比較しながら**情報を共有し、相談しながらの対応**をしています。

合併に伴い職員も入れ替わるなど、事務局体制も変わったので、以前と変わらぬ対応ができるよう心がけています。

◆運営上の課題は？

⇒何点かありますが、施設台帳等の見直しです。また、合併前からの各地区の未納金が多いため、滞納処分を検討しています。

◆今後の運営の抱負をお願いします

⇒**組合員に対する土地改良区の事業紹介や活動報告等情報発信のため、広報誌の発行を年1～2回**予定しています。また、事務局も現場に足を運び、組合員と事務局の関係を深め、うまく運営していければと思います。

県からのお知らせ

■栃木県ほ場整備連絡協議会20周年記念大会が開催されました

6月26日（水）ホテル東日本宇都宮において「栃木県ほ場整備連絡協議会20周年記念大会」が開催され、県内の各土地改良区、市町及び農業振興事務所などの関係者約300人が参加しました。

今回の記念大会は、栃木県ほ場整備連絡協議会設立20周年を契機に、今後とも当協議会がその役割を十分に発揮し、栃木県農業農村の発展に一層寄与していくことを目指して開催したものです。式典では、栃木県ほ場整備連絡協議会加藤会長の主催者挨拶にはじまり、来賓挨拶、荒井理事による20周年の歩み報告があり、記念講演では全国農村振興技術連盟の太田委員長や、福田知事による「元気度日本一栃木県を目指して」をテーマとした講演が行われました。引き続き行われた交流会では、栃木県土地改良事業団体連合会大久保会長の主催者挨拶にはじまり、乾杯の音頭の後、事業推進に尽力された関係土地改良区の皆様どうし、苦労話に花が咲き、盛会のうちに記念大会を終えることができました。



知事の講演に熱心に耳を傾ける参加者



談笑が絶えなかった交流会

～編集後記～

荒川南部土地改良区と湯津上土地改良区の役職員の方々に取材のご協力いただき、水土里ネットパワーアップナビ第3号を無事に発行することができました。両土地改良区の役職員の皆様には熱心に取材に応じていただき、大変ありがとうございました。

今後も分かりやすい紙面を目指していきますので、紙面の感想や取り上げてほしい題材等がありましたら、下記連絡先までご意見をお寄せいただければ幸いです。